

DJI Focus Pro

ユーザーマニュアル

v1.0 2024.04





本書の著作権は DJI にあり、すべての権利を DJI が留保しています。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用したり、他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索して、トピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

任意のトピックへの移動

目次のトピック一覧をご覧ください。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

△ 重要

💡 ヒントとコツ

初めてご使用になる前にお読みください

DJI™ 製品を安全に操作し、活用していただくため、以下の資料をご用意しています。

DJI Focus Pro Motor 製品情報

DJI Focus Pro LiDAR 製品情報

DJI Focus Pro Grip 製品情報

DJI Focus Pro Hand Unit 製品情報

DJI Focus Pro ユーザーマニュアル

公式 DJI ウェブサイトの製品ページにあるチュートリアルビデオをご覧ください。

<https://www.dji.com/focus-pro/video>



チュートリアル

本製品の取り付け中や使用中に疑問や問題が生じた場合は、DJI または DJI 正規代理店にお問い合わせください。

Ronin アプリのダウンロード

QR コードをスキャンするか、アプリストアで DJI Ronin を検索して、Ronin アプリをダウンロードしてください。



DJI Ronin



iOS 11.0 以降



Android 8.0 以降

DJI Assistant 2 (Ronin シリーズ) のダウンロード

以下のリンクから DJI Assistant 2 (Ronin シリーズ) をダウンロードして、製品を更新してください。

<https://www.dji.com/focus-pro/downloads>

目次

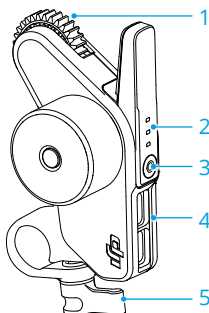
本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
初めてご使用になる前にお読みください	3
Ronin アプリのダウンロード	3
DJI Assistant 2 (Ronin シリーズ) のダウンロード	3
製品の特徴	6
モーターの概要	6
LiDAR の概要	7
グリップの概要	8
グリップのボタンとポート	8
グリップのタッチ画面機能	10
ハンドユニットの概要	14
ハンドユニットのボタンとポート	14
ハンドユニットタッチ画面の機能	16
DJI Focus Pro Creator Combo を使用する	17
グリップのアクティベーション	17
グリップの取り付け	18
マニュアルフォーカスを使用する	19
モーターの取り付け	19
モーターのキャリブレーション	20
フォーカスの制御	20
ズームの制御	21
オートフォーカスを使用する	22
LiDAR の取り付け	22
取り付け距離の設定	23
レンズのキャリブレーション	23
AFトラッキング感度の設定	26
フォーカスエリアの設定	26
拡大設定	27
フォーカスモード設定	27
DJI Focus Pro All-In-One Combo を使用する	28
ハンドユニットの準備	28
ハンドユニットのアクティベーション	28

ハンドユニットをモーターにリンクさせる	29
DJI Focus Pro Hand Unit を使用する	30
ハンドユニット + モーター + LiDAR + グリップ	30
ハンドユニット + モーター + LiDAR	31
ハンドユニット + Ronin 4D	31
ハンドユニット + Ronin 4D Flex	31
ハンドユニット + Inspire 3	32
DJI RS 4/DJI RS 4 Pro と併用する	33
マニュアルフォーカスを使用する	33
モーターの取り付け	33
モーターのキャリブレーション	35
オートフォーカスを使用する	36
LiDAR の取り付け	36
取り付け距離の設定	37
レンズのキャリブレーション	37
AF トラッキング感度の設定	38
ActiveTrack Pro の設定	38
フォーカスエリアの設定	38
拡大設定	39
フォーカスモード設定	39
ActiveTrack Pro を使用する	39
DJI Focus Pro のファームウェア更新	40
グリップとハンドユニットの更新	40
モーターの更新	40
LiDAR の更新	40
グリップおよび内蔵バッテリーに関する安全ガイドライン	41
仕様	44

製品の特徴

DJI Focus Pro は、モーター、LiDAR、グリップ、ハンドユニットで構成された自動マニュアルフォーカス（AMF）レンズ制御システムです。これら 4 つのユニットは、お客様の撮影ニーズに合わせて、さまざまな組み合わせで使用できます。自動マニュアルフォーカス、オートフォーカス、マニュアルフォーカスは、オートレンズにもマニュアルレンズにも使用できます。

モーターの概要



1. ギア
2. ステータス LED (F/I/Z)

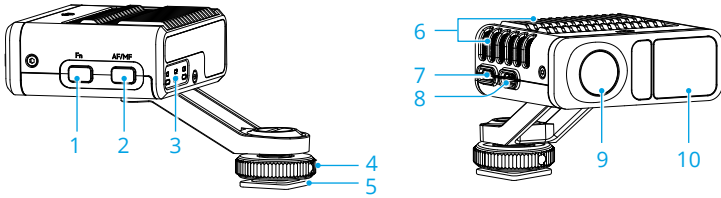
点滅パターン	説明
赤色点灯	モーターがキャリブレーションされています。
赤色点滅	モーターがキャリブレーションされていません。

DJI Focus Pro Hand Unit 併用時：

点滅パターン	説明
緑色点灯	モーターがハンドユニットにリンクされています。
赤色点灯	モーターがハンドユニットにリンクされていません。
点滅	モーターがキャリブレーションされていません。

3. 機能ボタン
1 回押すと、F/I/Z チャンネルが切り替わります。長押しすると点滅し始めます。2 回押すと、モーターのキャリブレーションを開始/停止します。
4. データポート (USB-C)
5. ロッドクランプ

LiDAR の概要



1. 機能ボタン

1回押すと、レンズ プロファイルが切り替わります。2回押すと、モーターをキャリブレーションします。長押しすると、LiDAR がスリープモードに入り、1回押すとスリープモードを終了します。

2. AF/MF ボタン

1回押すと、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えます。

3. ステータス LED

C1、C2、C3 がオンの場合、C1、C2、C3 のレンズ プロファイルが使用されていることを示します。詳細は下表を参照してください。

点滅パターン	説明
緑色点灯	AF モード
赤色点灯	MF モード。モーターを手動で制御できます。
黄色点灯	AMF モード。ベースはオートフォーカスですが、グリップとハンドユニットのフロントダイヤルを使用して、随時手動で制御できます。
緑色 2 回点滅	レンズがキャリブレーションされていません。レンズリーダーがありません。
赤色で 2 回点滅	レンズがキャリブレーションされ、フォーカスモーターエンドポイントがキャンセルされています。

4. ロックノブ

ロックノブは、LiDAR をカメラに取り付けた後に締めつけます。

5. コールドシューアダプター用 1/4 インチ -20 ねじ

LiDAR はカメラのホットシューに取り付けます。

6. 放熱スロット

使用中はスロットを塞がないでください。

7. ファームウェア更新ポート (USB-C)

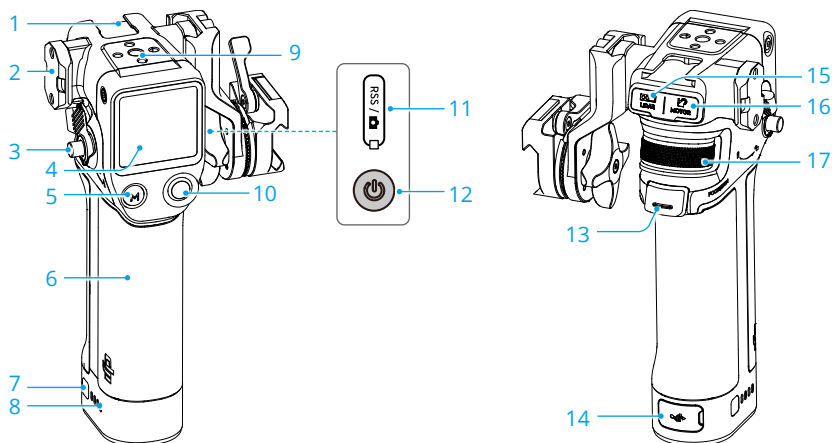
8. データポート (USB-C)

9. 可視光カメラ

10. LiDAR カメラ

グリップの概要

グリップのボタンとポート



1. コールドシュー
2. NATO ポート
3. グリップレバー／安全ボタン
グリップの着脱用
4. タッチ画面
5. M ボタン
1 回押すと、AF/MF モードまたは AMF/MF モードが切り替わります。または、カメラの C1 / Fn1 ボタンがマッピングされます。
6. BG21 グリップ
バッテリー内蔵、1/4 インチ -20 ねじ穴付き。
7. バッテリー残量ボタン
1 回押すと、バッテリー残量を確認できます。
8. バッテリー残量 LED
9. 1/4 インチ -20 ねじ穴
10. カメラ制御ボタン
Bluetooth またはカメラ制御ケーブルを使用してカメラに接続した後に、このボタンを使用してカメラシャッターを制御します。詳細については、公式ウェブサイトの「カメラ&レンズの互換性」を参照してください。

11. RSS カメラ制御ポート (USB-C)**12. 電源ボタン**

長押しすると、グリップの電源をオン／オフします。1 回押すと、LiDAR がスリープモードに入ります。

13. トリガー

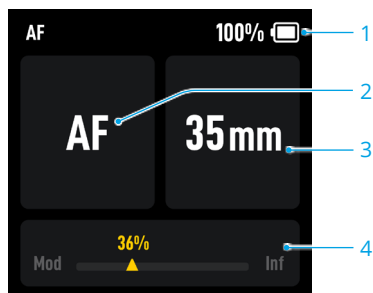
1 回押すと、オートフォーカスの対象がロックされます。

14. 充電ポート (USB-C)**15. LiDAR ポート (USB-C)****16. モーターポート (USB-C)****17. フロントダイヤル**

フォーカスまたはズーム制御用。MF モードでは、フロントダイヤルを使用してフォーカスまたはズームを制御します。AF モードでは、LiDAR フォーカスエリアが [ワイド] に設定されている場合に、フロントダイヤルを使用してフォーカス対象を切り替えます。

グリップのタッチ画面機能

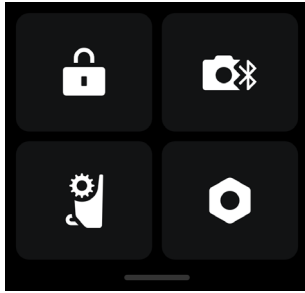
Home（ホーム）



1. グリップのバッテリー残量を表示します。
2. 使用中のフォーカスモードを表示します：AF/AMF/MF。
3. 使用中のレンズの焦点距離を表示します。
4. モーターが回転する位置を表示します（最短撮影距離から無限大まで）。

下にスワイプ：Control Center（コントロールセンター）

タッチ画面が Home（ホーム）画面を表示している状態でタッチ画面を上から下にスワイプし、Control Center（コントロールセンター）を表示させます。



Screen Lock（画面ロック）

誤操作を防ぐために、タッチ画面をタップしてロックし、上にスワイプしてロックを解除します。

Bluetooth

アイコンをタップすると、Bluetooth 経由でカメラに接続します。BMPCC（Blackmagic Pocket Cinema Camera）シリーズのカメラでは、グリップに接続する前にパスワードが要求されます。正常に接続されると、Bluetooth アイコンは青色に変わります。

 ・グリップが一度に接続できるカメラは、1 台のみです。

Focus Motor Endpoints（フォーカスモーターエンドポイント）

モーターのキャリブレーションは使用前に完了する必要があります。エンドポイントは手動で設定するかキャンセルできます。

Settings（設定）

Startup Auto-Tune（オートチューンの起動）：有効にすると、電源投入後にモーターが自動的にキャリブレーションされます。

Restore Parameters（パラメーターのリセット）：タップすると、グリップの Bluetooth パスワードとパラメーターがリセットされます。

Languages（言語）：タップして画面上の言語を選択します。

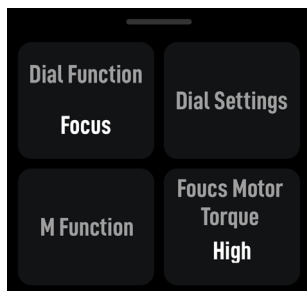
Device Information（デバイス情報）：タップすると、デバイスのシリアルナンバー（SN）、デバイス名、パスワードなどのデバイス情報が表示されます。

Device Information（ファームウェアバージョン）：タップすると、グリップのファームウェアバージョンが表示されます。

Compliance Info（コンプライアンス情報）：タップすると、グリップのコンプライアンス情報が表示されます。

上にスワイプ：Settings（設定）

画面を下から上にスワイプすると、グリップ設定画面が表示されます。



Dial Function（ダイヤル機能）

F モーターを制御するには、ダイヤル機能を [フォーカス] に設定し、Z モーターを制御するには、ダイヤル機能を [ズーム] に設定します。

Dial Settings（ダイヤル設定）


Dial Speed（ダイヤル速度）：1～100 に設定できます。

Dial Damping（ダイヤル減衰）：1～100 に設定できます。減衰値が高いほど、ダイヤルを回す際の抵抗が大きくなります。

Reverse（リバース）：有効にすると、モーターの方向が反転します。

M Function（M 機能）

M ボタン機能を設定して、AF/MF モードと AMF/MF モードを切り替えます。または、カメラの C1/Fn1 ボタン機能をマッピングします。

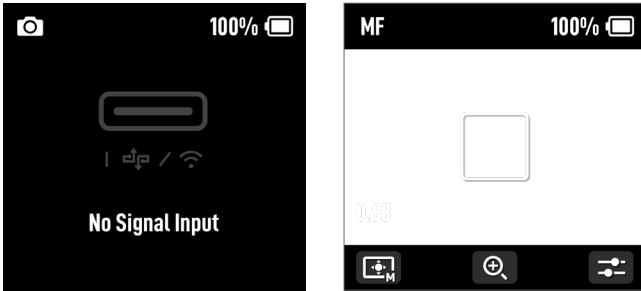
 カメラの C1/Fn1 ボタン機能をマッピングする方法

1. M ボタンを、Sony A7S3、A7M3、ZV-1 および Nikon Z50、Z6II カメラの C1 または Fn1 ボタンにマッピングします。
 2. カメラの C1/Fn1 ボタンの設定を完了します。この機能は、Bluetooth 経由でカメラに接続している場合にものみ使用できます。
-

Focus Motor Torque（フォーカスモータートルク）

high（高）、medium（中）、low（低）に設定できます。

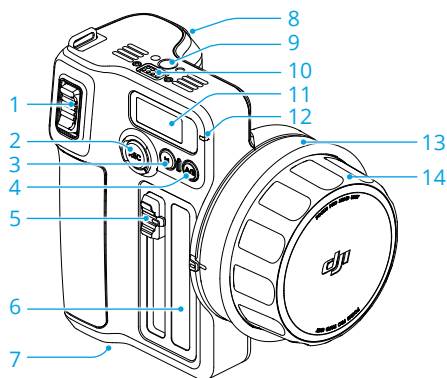
右にスワイプ：Video Transmission（映像伝送）



画面の左から右にスワイプすると、Video Transmission（映像伝送）画面に入ります。
LiDAR が接続されていない場合は、画面に [No signal input（入力信号なし）] と表示されます。
LiDAR が接続されると、オートフォーカスを使用できます。

ハンドユニットの概要

ハンドユニットのボタンとポート



1. ズームスティック

ズームスティックを押し引きして、ズーム制御用のZモーターを制御します。

2. 録画ボタン

録画ボタンを長押しして、電源をオン/オフします。ハンドユニットの電源が入っているときに1回押しすると、録画を開始/停止します。

3. M ボタン

1回押しすると、AF/MFモードおよびAMF/MFモードが切り替わります。この機能は、タッチ画面メニューのMボタン機能の設定に応じて異なります。長押しすると点滅し始めます。Mボタンとトリガーボタンを同時に長押しすると、モーターのキャリブレーションを開始します。

4. A/B ボタン

A/Bポイントは、2つの特定のフォーカスポイントのエンドポイントです。ボタンを1回押しするとポイントAが設定され、フォーカスノブを目的の位置まで回転させてボタンをもう1回押しすると、ポイントBが設定されます。ボタンをさらにもう1回押しすると、両方のポイントが削除されます。

5. 絞りスライダー

スライドして、絞り制御用のIモーターを制御します。

6. 絞りマーカーストリップ

7. バッテリー収納部

8. トリガー

1回押しすると、オートフォーカスの対象がロックされ、もう一回押しすると、対象のロックが解除されます。これにはLiDARを併用する必要があります。トリガーボタンを長押しすると、ハンドユニットの減衰調整が開始され、次にフォーカスノブを回転させると、減衰強度が調整されます。

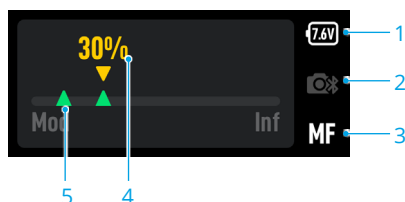
9. ねじ穴
10. 電子接点パッド
11. タッチ画面
12. ステータス LED

点滅パターン	説明
赤色点灯	モーターが接続されていません。
緑色点灯	モーターが接続されています。
黄色点灯	リンク中。

13. フォーカス マーカーリング
14. フォーカス ノブ
フォーカスノブを回転させて、フォーカス制御用の F モーターを制御します。

ハンドユニットタッチ画面の機能

Home（ホーム）



1. 現在のバッテリー電圧を表示します。
2. Bluetooth 接続状態を表示します。
3. 使用中のフォーカスモードを表示します：AF/MF/AMF。
4. フォーカススケール上にモーター位置を表示します。
5. A/B ボタンを押して A/B ポイントを設定した際に、エンドポイントを表示します。

下にスワイプ：Settings（設定）

Bluetooth：タップして、Bluetooth シャッター操作機能に対応しているカメラを接続します。

Focus Motor Calibration（フォーカスマーターのキャリブレーション）：タップして、モーターをキャリブレーションします。

Link Motor（モーターのリンク）：タップして、モーターにリンクします。

Focus Motor Torque（フォーカスマータートルク）：タップして、モータートルクを高、中、低に調整します。

Focus Knob Stiffness（フォーカスノブ剛性）：タップして、フォーカスノブの剛性を 1～100 に調整します。

Invert Function Buttons Direction（機能ボタン方向の反転）：タップすると、フォーカス、ズーム、絞り制御の回転方向を反転します。

M Button（M ボタン）：タップして、M ボタン機能を AF/MF または AMF/MF に設定します。

Backlight（バックライト）：バックライトはオン/オフを切り替えることができます。

一般設定

Startup Auto-Tune（オートチューンの起動）：有効にすると、電源投入後にモーターが自動的にキャリブレーションされます。

Language（言語）：タップして、画面上の言語を中国語または英語に設定します。

Reset（リセット）：タップするとパラメーターがリセットされ、Bluetooth パスワードが「12345678」にリセットされます。

Device Info（デバイス情報）：タップすると、デバイスのシリアルナンバー（SN）、名称、Bluetooth パスワードが表示されます。

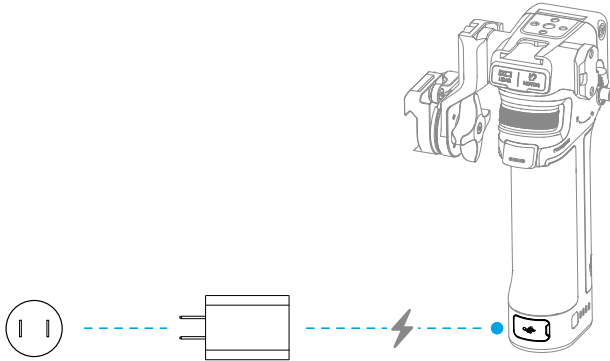
Device Information（ファームウェアバージョン）：タップすると、ハンドユニットおよび接続されているモーターのファームウェアが表示されます。

Compliance Info（コンプライアンス情報）：タップすると、ハンドユニットのコンプライアンス情報が表示されます。

DJI Focus Pro Creator Combo を使用する

グリップのアクティベーション

グリップの電源ポートに USB-C ケーブルを接続してバッテリーを充電し、アクティベートします。バッテリー残量 LED が点灯し、正常にアクティベーションされたことが表示されます。



- ⚠️ ・グリップはアクティベーションすることなく 5 回使用できます。それ以降の使用にはアクティベーションが必要となります。アクティベーションする前に、DJI Ronin アプリをダウンロードし、インストールしてください。

グリップをアクティベートするには、以下の手順に従ってください：

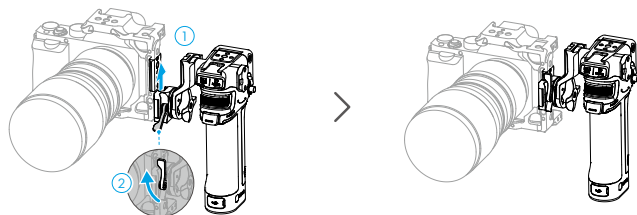
1. 電源ボタンを長押ししてグリップの電源を入れ、タッチ画面で言語を選択します。
2. スマートフォンの Bluetooth を有効にします。Ronin アプリを起動し、DJI アカウントでログインします。[Focus Grip (フォーカスグリップ)] を選択し、デフォルトパスワード [12345678] を入力し、指示に従ってグリップをアクティベーションします。

- ⚠️ ・アクティベーション中は、モバイル端末がインターネットに接続していることを必ず確認してください。

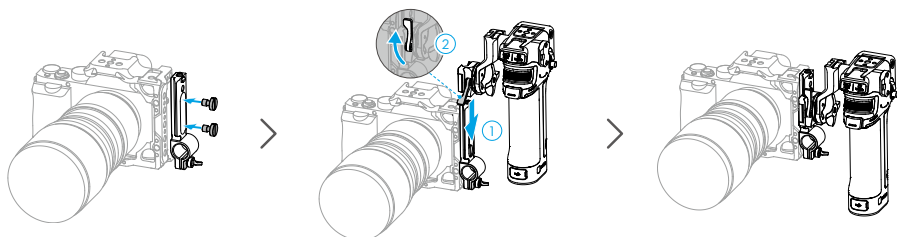
グリップの取り付け

⚠ ・グリップはカメラケース（別売）に取り付けることをお勧めします。

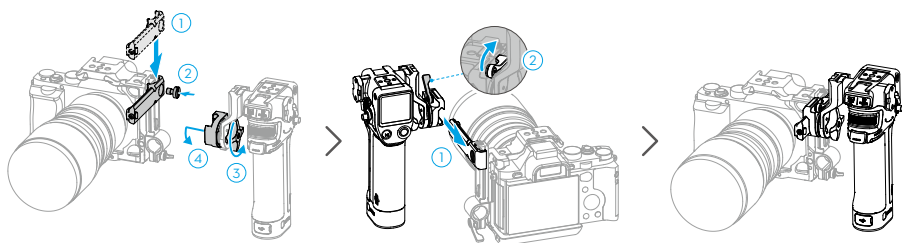
カメラケースにスライドレールが付いている場合は、グリップをスライドレールに挿入し、グリップのレバーをロックします。



カメラケースにスライドレールが付いていない場合は、カメラケースに付属のロッドアダプタースライドレールを取り付けてから、スライドレールにグリップを挿入し、グリップのレバーをロックします。



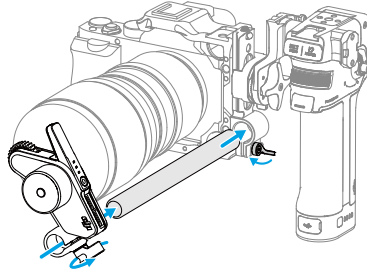
グリップを水平に移動する必要がある場合は、グリップを取り付ける前に、付属の水平アダプタースライドレールを取り付けます。NATO アダプターマウントの方向は調整できます。ノブを回転させて、コネクターを外側に引いて反時計回りに回転させ、角度を調整して、水平アダプタースライドレールにグリップを取り付けます。



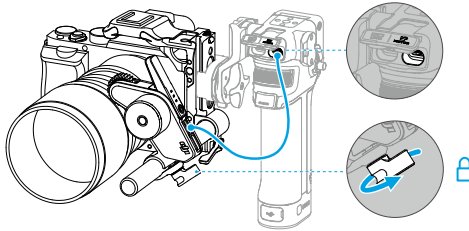
マニュアルフォーカスを使用する

モーターの取り付け

1. ロッドアダプターに 15 mm ロッドを取り付け、締めつけます。
2. 15 mm ロッドにモーターを取り付け、モーターギアをレンズのフォーカスリングに合わせて、クランプを締めつけます。



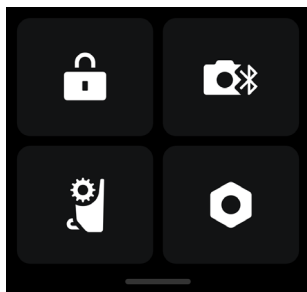
3. モーターの USB-C ポートのいずれかを、グリップのモーターポートに接続します。



モーターのキャリブレーション

モーターは使用前にキャリブレーションする必要があります。

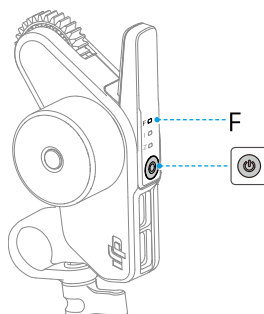
タッチ画面が Home（ホーム）画面を表示している状態でタッチ画面を上から下にスワイプし、Control Center（コントロールセンター）を表示させます。モーターのアイコンをタップして、[Focus Motor Calibration（フォーカスモーターのキャリブレーション）] を選択し、[Confirm（確認）] をタップしてキャリブレーションを開始します。グリップのトリガーボタンと M ボタンを同時に押すと、モーターをすばやくキャリブレーションできます。



- ⚠️ ・フォーカスが不正確にならないように、モーターの取り付け位置が変更されている場合はモーターを再キャリブレーションします。

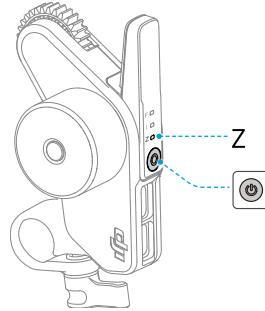
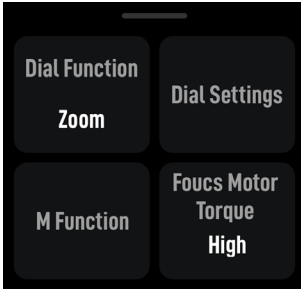
フォーカスの制御

1. タッチ画面を下から上にスワイプして [Settings（設定）] に移動し、[Dial Functions（ダイヤル機能）] をタップして [Focus（フォーカス）] に設定します。
2. モーターの機能ボタンを 1 回押して、F モードに切り替えます。フロントダイヤルを使用して、減衰レスポンスでフォーカスを制御します。



ズームの制御

1. タッチ画面を下から上にスワイプして [設定] に移動し、[Dial Functions (ダイヤル機能)] をタップして [Zoom (ズーム)] に設定します。
2. モーターの機能ボタンを 1 回押して、Z モードに切り替えます。フロントダイヤルを使用して、スプリングバックレスポンスでズームを制御します。

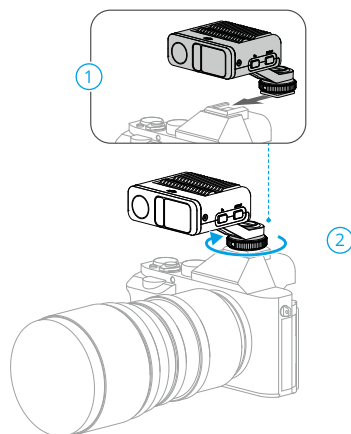


オートフォーカスを使用する

グリップをモーターおよびLiDARと併用すると、マニュアルレンズでオートフォーカスを使用できます。

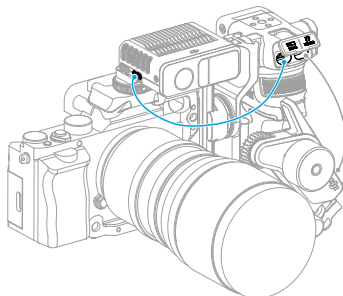
LiDARの取り付け

1. カメラのコールドシューか、カメラケージの 1/4 インチねじ穴 (カメラの光軸付近) に LiDAR を取り付けます。



- ⚠
- LiDAR をレンズフードやケーブルで遮らないでください。遮られると距離検知に影響して、フォーカスが不正確になる可能性があります。
 - カメラを垂直に取り付ける際は、LiDAR が水平に取り付けられていることを確認してください。LiDAR を垂直または上下逆さまに取り付けしないでください。

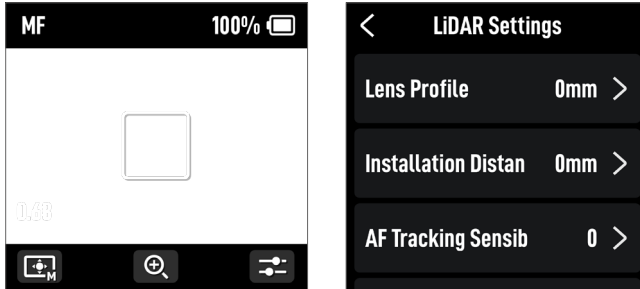
2. USB-C ケーブルを使用して、LiDAR のデータポートとグリップの LiDAR ポートを接続します。LiDAR はグリップから給電されるため、グリップの電源がオンになると使用できるようになります。



3. 画面を右へスワイプして Video Transmission (映像伝送) に移動します。ここで LiDAR 撮影ビューを表示できます。

取り付け距離の設定

付属のフォーカスカードのスケールを使用して、カメラのイメージセンサー面から LiDAR のガラス面までの距離を測定します。Video Transmission（映像伝送）ビューの右下隅にある [設定] アイコンをタップし、[LiDAR Settings（LiDAR 設定）] に移動して、[Installation Distance（取り付け距離）] をタップしてから値を入力します。



レンズのキャリブレーション

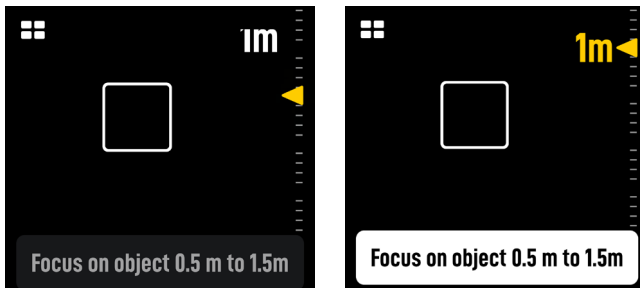
レンズは、オートフォーカスを使用する前にキャリブレーションする必要があります。

グリップからレンズをキャリブレーションする

1. Video Transmission（映像伝送）ビューの右下隅にある [Settings（設定）] アイコンをタップして、[LiDAR Settings（LiDAR 設定）] に移動します。
2. [Lens Profile（レンズ プロファイル）]、[+] をタップしてレンズ プロファイルを追加し、レンズの焦点距離を入力してから [Confirm（確認）] をタップすると、モーターがレンズのフォーカス範囲をキャリブレーションします。
3. モーターのキャリブレーションが完了したら、フォーカスカードを使用してレンズのキャリブレーションを完了することをお勧めします。

レンズをキャリブレーションするときは、フォーカスカードをウォールに取り付け、カメラをフォーカスカードから 0.5 ~ 1.5 m の距離に配置してから、フォーカスカードをカメラビューの中央に合わせます。スケールポイントの範囲が 0.5 ~ 1.5 m の場合は、フロントダイヤルを回転させてフォーカスを調整し、フォーカスピークを確認します。フォーカスピークが最大の場合、レンズの焦点は合っています。

カメラをフォーカスカードから 4 ~ 5 m の距離に配置し、フォーカスカードをカメラビューの中央に合わせます。同じ方法でフォーカスを調整します。[Confirm（確認）] をタップして、レンズのキャリブレーションを完了します。

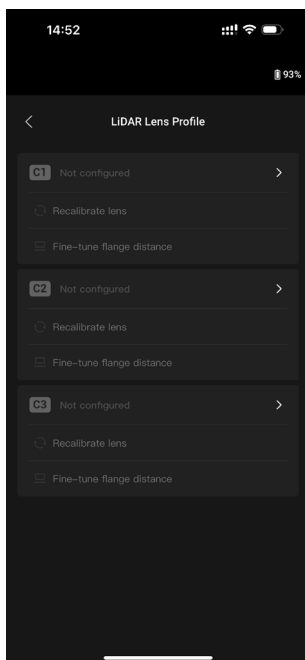
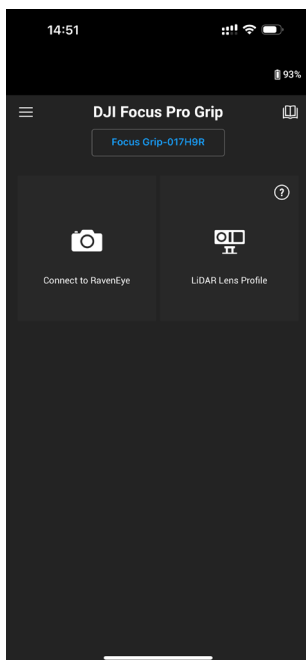


レンズ プロファイルを削除する必要がある場合は、レンズ プロファイルの矢印アイコンをタップしてから、[Delete（削除）] をタップします。

Ronin アプリを使用してレンズをキャリブレーションする

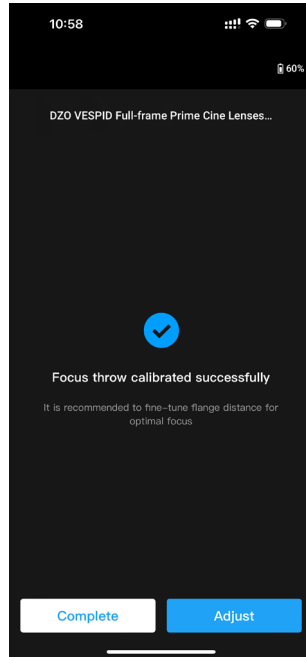
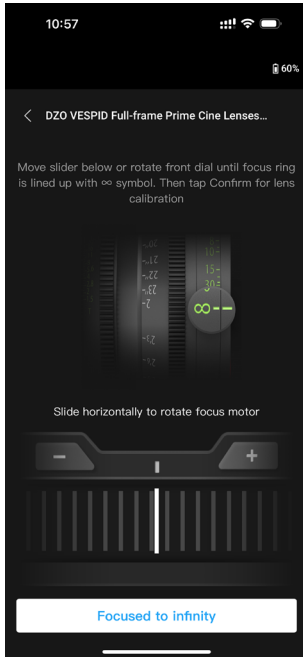
レンズ プロファイルが Ronin アプリで設定されている場合は、Ronin アプリを使用してレンズキャリブレーションを短縮できます。

1. Ronin アプリの Home（ホーム）画面に移動し、[LiDAR Lens Profile（LiDAR レンズ プロファイル）] を選択します。
2. [C1/C2/C3] の [+] をタップして新しいプロファイルを追加し、[Lens Brand（レンズブランド）]、[Lens Series（レンズシリーズ）]、[Lens Focal Length（レンズ焦点距離）] を選択します。



3. [Next（次へ）] をタップしてフォーカスリングのキャリブレーション画面を開き、フォーカスリングを [∞] にスライドさせてから、[Confirm（確認）] をタップしてレンズのキャリブレーションを開始します。キャリブレーションが完了すると、レンズ プロファイルが保存されます。

フランジの調整に関するプロンプトが表示されている場合は、付属のフォーカスカードを使用して確認できます。レンズをフォーカスカードに向けます。画像が鮮明な場合は、フランジの調整は不要です。[Complete (完了)] をタップして確定します。画像が鮮明でない場合は、[Adjust (調整)] をタップします。画像が鮮明になるまでスライダーを左右に動かし、[Complete (完了)] をタップしてレンズのキャリブレーションを完了します。



その他の設定

1. Recalibrate Lens (レンズの再キャリブレーション)：フォーカスが正確でない場合は、レンズを再キャリブレーションします。
2. Adjust Flange Distance (フランジ距離の調整)：フランジ距離を調整して、異なるレンズマウントの使用により生じるフォーカスエラーを排除することで、フォーカスの正確度を向上させます。



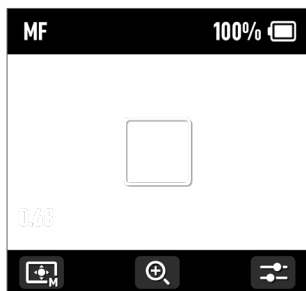
- ・ [LiDAR Lens Profile (LiDAR レンズ プロファイル)] リストにレンズモデルがない場合は、グリップを使用してレンズをキャリブレーションします。
- ・ レンズキャリブレーション完了後にモーターの取り付け位置を変更した場合は、フォーカスが不正確にならないように、レンズを再キャリブレーションしてください。

AF トラッキング感度の設定

AF トラッキング感度は 1 ～ 5 に設定できます。値が大きいほど、フォーカス速度が速くなります。

フォーカスエリアの設定

画面の左下のボタンをタップして、フォーカスエリアを切り替えます。



ワイドモードでは、LiDAR は人物や車両などの被写体を自動的に認識し、カメラビューの中心に最も近い被写体にフォーカスします。カメラビューに人物や車両が入っていない場合、LiDAR はカメラビューの中心にフォーカスします。

Flex スポットモードでは、LiDAR は自動的にフレーム内の被写体にフォーカスします。画像をタップするか、ドラッグして選択することで、被写体を選択することもできます。

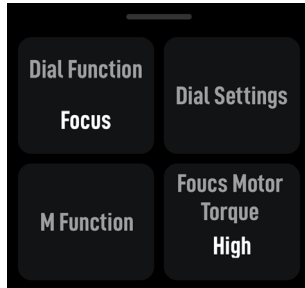
-
- ⚠** ・ワイドモードでは、最大 5 つの被写体を認識できます。白色のフレームは被写体を選択およびフォーカスされていること、グレーのフレームは被写体が認識されているがフォーカスされていないこと、黄色のフレームは被写体がロックされていることを示します。被写体は、グリップのフロントダイヤルまたはトリガーボタンで、ロック/ロック解除できます。
-

拡大設定

[+] アイコンおよび [-] アイコンをタップすると、ズームイン/ズームアウトします。デフォルトの焦点距離（35 mm 判換算）は 30 mm で、LiDAR の焦点距離は 0.5 ~ 10 m です。ビューを拡大すると、LiDAR の焦点距離は 0.5 ~ 20 m になります。

フォーカスモード設定

M ボタン機能を、グリップのタッチ画面で AF/MF または AMF/MF に設定します。



AF: LiDAR は自動的にフォーカスします。フロントダイヤルを使用してフォーカス対象を選択し（ワイドモード）、AF トラッキング感度を 1 ~ 5 に設定します。

MF: フロントダイヤルを使用して手動でフォーカスを調整し、ダイヤル速度を変更してフォーカス範囲を調整します。

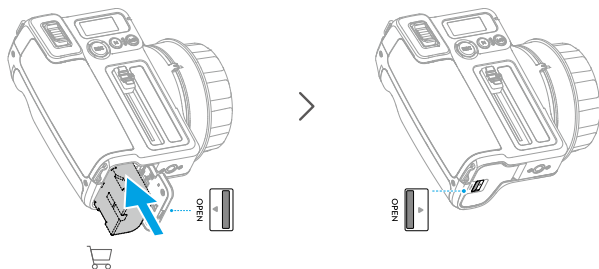
AMF: LiDAR は自動的にフォーカスします。フォーカスが変更されるとフロントダイヤルが回転しますが、同時にユーザーは手動で焦点を合わせることもできます。

DJI Focus Pro All-In-One Combo を使用する

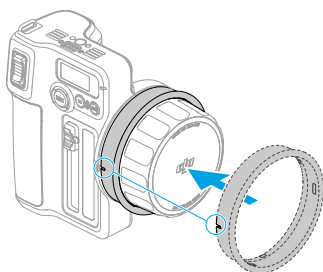
DJI Focus Pro All-In-One Combo の使用方法は、Creator Combo の使用方法に基づいており、それにハンドユニットが追加されています。

ハンドユニットの準備

ハンドユニットは、NP-F550 モデルのバッテリー（別売）から給電されます。



レンズフォーカスを再利用するためのマーキング用に、5つのフォーカスマーカーリングがあります。ポートの位置を合わせながら、フォーカスマーカーリングをフォーカスノブに取り付けます。



ハンドユニットのアクティベーション

初めて使用する前に、ハンドユニットをアクティベーションしてください。

- ⚠** ・ハンドユニットはアクティベーションなしで5回使用できます。それ以降の使用にはアクティベーションが必要となります。アクティベーションする前に、DJI Ronin アプリをダウンロードし、インストールしてください。

ハンドユニットをアクティベーションするには、以下の手順に従ってください。

1. [REC] ボタンを長押ししてハンドユニットの電源を入れ、タッチ画面で言語を選択します。
2. スマートフォンの Bluetooth を有効にします。Ronin アプリを起動し、DJI アカウントでログインします。ハンドユニットを選択し、デフォルトのパスワード「12345678」を入力し、指示に従ってハンドユニットをアクティベーションします。

- ⚠** ・アクティベーション中は、モバイル端末がインターネットに接続していることを必ず確認してください。

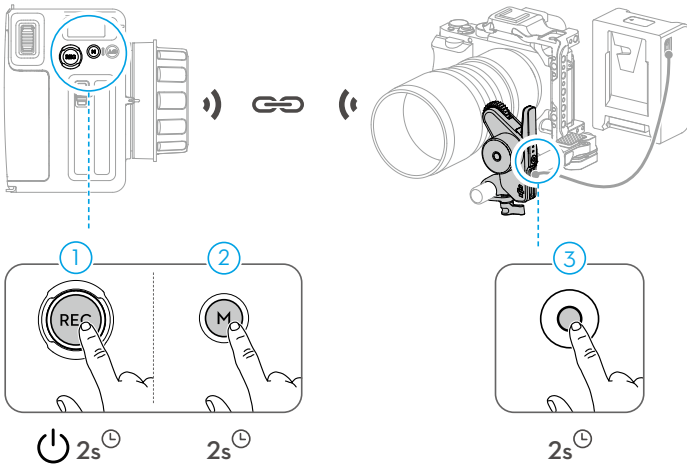
ハンドユニットをモーターにリンクさせる

モーターには外部電源が必要です。付属の D-TAP - USB-C ケーブルを使用して V ポートバッテリーを接続し、モーターに給電できます。グリップからモーターに給電することもできます。

- ⚠️ ・グリップなどの外部電源からモーターに給電する場合は、D-TAP - USB-C ケーブルを使用しないでください。使用すると、電源が損傷するおそれがあります。
- 💡 ・最大 3 基のモーターを直列に接続し、フォーカス、ズーム、絞りの制御に使用できます。USB-C ケーブルを使用してモーターを接続します。
- ・付属の F/I/Z ステッカーは、F/I/Z モーターの識別用に使用してください。

モーターにハンドユニットをリンクさせるには、以下の手順に従ってください：

1. [REC] ボタンを長押ししてハンドユニットの電源を入れてから、M ボタンを押してモーターとのリンクを開始します。LED が黄色に点灯し、リンクの準備が完了したことを表示します。
2. モーターのボタンを長押ししてリンクを開始します。リンクが正常に完了すると、ステータス LED が緑色に点灯します。複数のモーターを直列に接続する場合は、いずれか 1 つのモーターをリンクします。



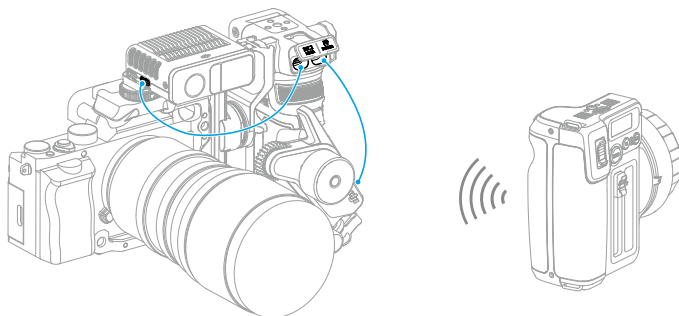
モーターとハンドユニットをリンクしたら、ハンドユニットを Ronin アプリに接続して、レンズをキャリブレーションします。詳細については、「Ronin アプリを使用してレンズをキャリブレーションする」セクションを参照してください。

- ⚠️ ・グリップを使用してレンズをキャリブレーションし、プロファイルをモーターに保存した場合は、ハンドユニットの使用時にレンズを再キャリブレーションする必要はありません。

DJI Focus Pro Hand Unit を使用する

ハンドユニット + モーター + LiDAR + グリップ

モーター、LiDAR、グリップを取り付け、ハンドユニットをモーター、フォーカス、ズーム、絞りにリンクすると、複数のユーザーが同時に制御できるようになります。AF/MFモードとAMF/MFモードは、ハンドユニットで切り替えることができます。

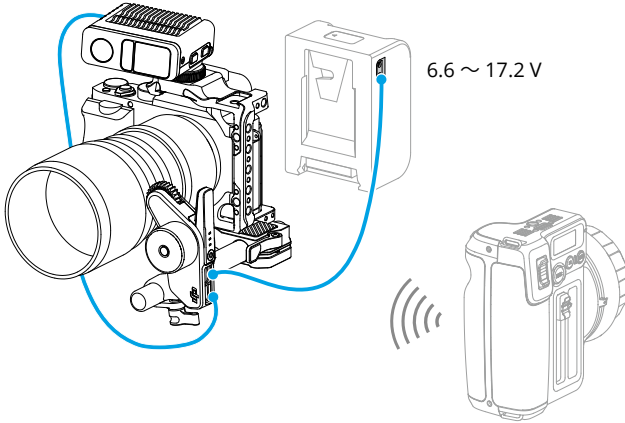


-
- ⚠ • フォーカスモードがAMFに設定されている場合、ハンドユニットをモーターにリンクさせると、グリップでレンズを制御することはできません。フォーカスモードがMFに設定されている場合は、ハンドユニットが優先されます。
-

ハンドユニット + モーター + LiDAR

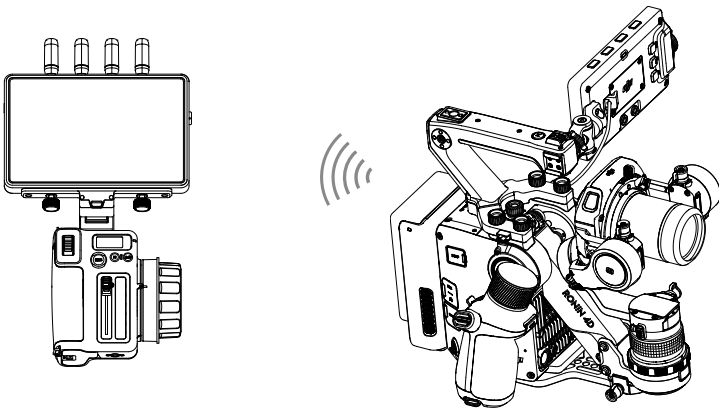
モーターと LiDAR を取り付けると、モーターは D-TAP - USB-C ケーブル経由で V ポートバッテリーから給電されます。モーターの他の USB-C ポートを使用して、LiDAR のデータポートに接続してください。

ハンドユニットとモーターをリンクすると、Ronin アプリを使用してレンズをキャリブレーションし、レンズ プロファイルをモーターに保存できます。AF/AMF/MF はハンドユニットを介して使用できます。



ハンドユニット + Ronin 4D

1. DJI High-Bright Remote Monitor Holder を使用して、ハンドユニットを DJI High-Bright Remote Monitor に取り付けます。
2. DJI High-Bright Remote Monitor を Ronin 4D に接続すると、Ronin 4D のフォーカスやズームをハンドユニットで制御できます。

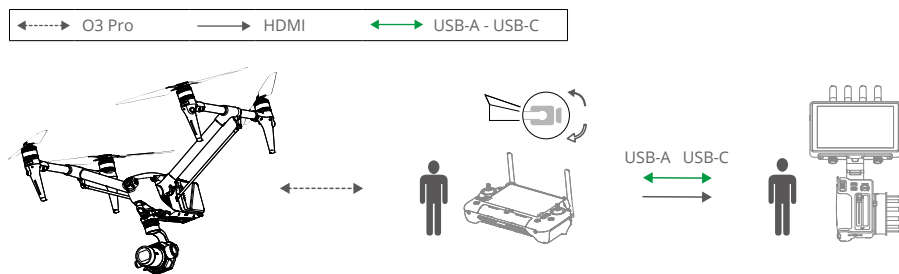



ハンドユニット + Ronin 4D Flex

3基のモーターを直列に接続し、Ronin 4D FlexのCANポートに接続します。モーターをハンドユニットにリンクすると、Ronin 4Dのフォーカスやズームをハンドユニットで制御できます。

ハンドユニット + Inspire 3

1. DJI High-Bright Remote Monitor Holder を使用して、ハンドユニットを DJI High-Bright Remote Monitor に取り付けます。
2. DJI High-Bright Remote Monitor と Inspire 3 の送信機 B を接続してから、送信機 B の USB-A ポートと DJI High-Bright Remote Monitor の USB-C ポートを接続します。送信機 B を Inspire 3 にリンクすると、Inspire 3 のフォーカスをハンドユニットで制御できます。



 ・詳細については、チュートリアルをご覧ください。

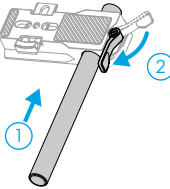
DJI RS 4/DJI RS 4 Pro と併用する

レンズは、DJI RS 4/DJI RS Pro とモーターを併用することで制御できます。モーター、LiDAR、DJI RS 4 Pro を併用することで、オートフォーカスを使用できます。

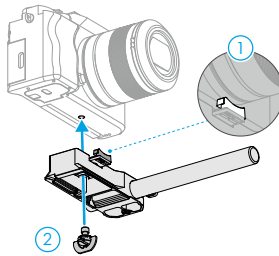
マニュアルフォーカスを使用する

モーターの取り付け

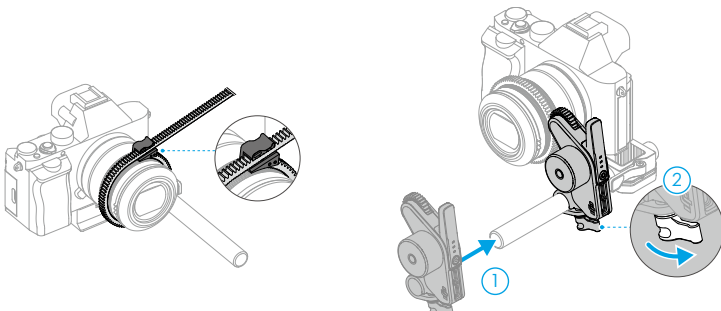
1. 取り付けプレートのレバーのロックを解除し、15 mm ロッドを取り付けてからレバーをロックします。



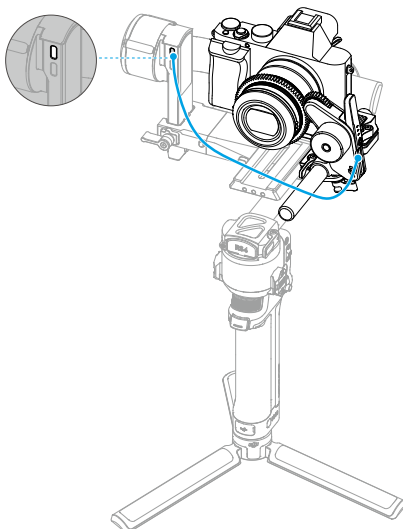
2. モーター取り付けプレートをカメラに取り付け、配置ガイドをカメラボディに合わせてから、ねじを締めつけます。



3. 必要に応じて、フォーカスギア ストリップをレンズに取り付けます。モーターを 15 mm ロッドに取り付け、モーターギアをレンズのフォーカスリングまたはフォーカスギア ストリップに合わせてから、モーターのクランプを締めつけます。



4. カメラをジンバルに取り付け、USB-C ケーブルを使用して、モーターの USB-C ポートのいずれか 1 つとジンバルのモーターポートを接続します。

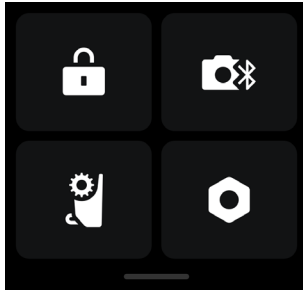


-
- ⚠ • モーターを直列に接続して、フォーカスやズームを制御できます。モーターは USB-C ケーブルで接続してください。
-

モーターのキャリブレーション

モーターは使用前にキャリブレーションする必要があります。

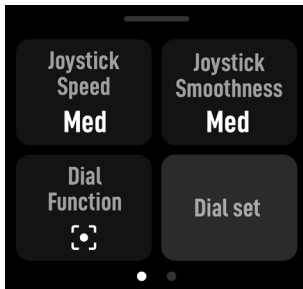
タッチ画面が Home（ホーム）画面を表示している状態でタッチ画面を上から下にスワイプし、Control Center（コントロールセンター）を表示させます。モーターのアイコンをタップして、[Focus Motor Calibration（フォーカスマーターのキャリブレーション）]を選択し、[Confirm（確認）]をタップしてキャリブレーションを開始します。



- ⚠ ・フォーカスが不正確にならないように、モーターの取り付け位置が変更されている場合はモーターを再キャリブレーションします。

モーターの制御

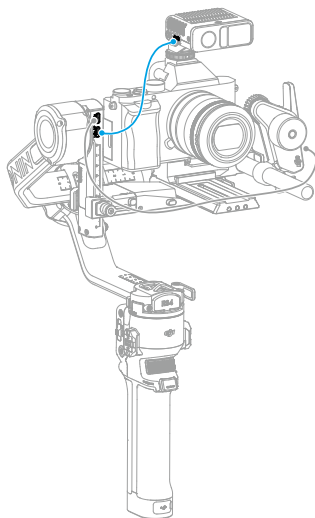
タッチ画面が Home（ホーム）画面を表示している状態で下から上にスワイプし、[Dial Functions（ダイヤル機能）]をタップして [Focus Motor（フォーカスマーター）]に設定すると、フロントダイヤルを使用してモーターを制御できるようになります。



オートフォーカスを使用する

LiDAR の取り付け

1. カメラケージまたはカメラのホットシューに LiDAR を取り付けます。
2. 付属のマルチカメラ制御ケーブルを使用して、LiDAR のデータポートを DJI RS 4 Pro の映像伝送/LiDAR ポートに接続します。

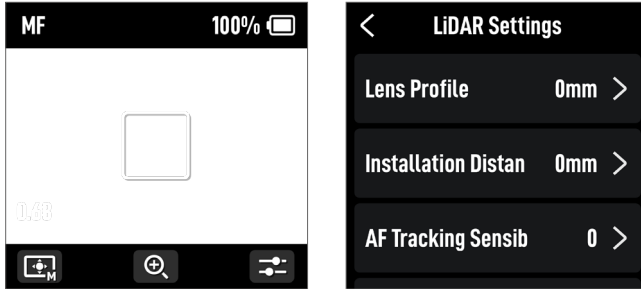


⚠ ・モーターと LiDAR の取り付け後に、バランス調整が必要です。

LiDAR は RS 4 Pro から給電されます。RS 4 Pro の Home (ホーム) 画面を右へスワイプして [Video Transmission (映像伝送)] に移動します。ここに、LiDAR 撮影ビューが表示されます。

取り付け距離の設定

付属のフォーカスカードのスケールを使用して、カメラのイメージセンサー面から LiDAR のガラス面までの距離を測定します。Video Transmission（映像伝送）ビューで、右下隅にある [Settings（設定）] アイコンをタップして [LiDAR Settings（LiDAR 設定）] に移動し、[Installation Distance（取り付け距離）] をタップして値を入力します。



レンズのキャリブレーション

オートフォーカスを使用する前に、レンズをキャリブレーションする必要があります。

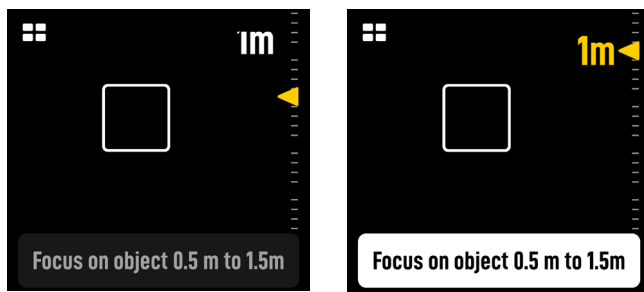
- ⚠️ ・キャリブレーションする前に、フロントダイヤル機能が [Focus Motor（フォーカスマーター）] に設定されていることを確認してください。ジンバルを安定したプラットフォームに配置し、所定の位置に固定してから、正確にキャリブレーションすることをお勧めします。

ジンバルを使用してレンズをキャリブレーションする

1. Video Transmission（映像伝送）ビューの右下隅にある [Settings（設定）] アイコンをタップして、[LiDAR Settings（LiDAR 設定）] に移動します。
2. [Lens Profile（レンズ プロファイル）]、[+] をタップしてレンズ プロファイルを追加し、レンズの焦点距離を入力してから [Start（開始）] をタップすると、モーターがキャリブレーションを開始します。
3. モーターのキャリブレーションが完了したら、フォーカスカードを使用してレンズのキャリブレーションを完了することをお勧めします。

レンズをキャリブレーションするとき、フォーカスカードをウォールに取り付け、カメラをフォーカスカードから 0.5 ~ 1.5 m の距離に配置してから、フォーカスカードをカメラビューの中央に合わせます。スケールポインターの範囲が 0.5 ~ 1.5 m の場合は、フロントダイヤルを回転させてフォーカスを調整し、フォーカスピークを確認します。フォーカスピークが最大の場合、レンズの焦点は合っています。

カメラをフォーカスカードから 4 ~ 5 m の距離に配置し、フォーカスカードをカメラビューの中央に合わせます。同じ方法でフォーカスを調整します。[Confirm（確認）] をタップして、レンズのキャリブレーションを完了します。



-
- ⚠️ ・レンズキャリブレーション完了後にモーターの取り付け位置を変更した場合は、フォーカスが不正確にならないように、レンズを再キャリブレーションしてください。
-

レンズ プロファイルを削除する必要がある場合は、レンズ プロファイルの矢印アイコンをタップしてから、[Delete (削除)] をタップします。

Ronin アプリを使用してレンズをキャリブレーションする

-
- ⚠️ ・詳細については、「Ronin アプリを使用してレンズをキャリブレーションする」セクションを参照してください。
-

AF トラッキング感度の設定

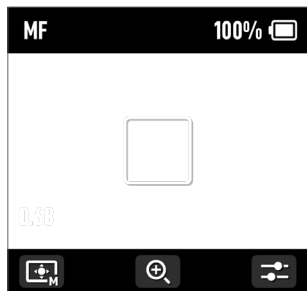
AF トラッキング感度は 1 ～ 5 に設定できます。値が大きいほど、フォーカス速度が速くなります。

ActiveTrack Pro の設定

ActiveTrack 設定では、ActiveTrack 速度とチルトフォローの切り替えを設定できます。

フォーカスエリアの設定

画面の左下のボタンをタップして、フォーカスエリアを切り替えます。



ワイドモードでは、LiDAR は人物や車両などの被写体を自動的に認識し、カメラビューの中心に最も近い被写体にフォーカスします。カメラビューに人物や車両が入っていない場合、LiDAR はカメラビューの中心にフォーカスします。

AF モードでは、フロントダイヤルを使用してフォーカス対象を選択します。MF モードでは、フロントダイヤルを使用して手動で焦点を合わせます。シングルオートフォーカスを使用するには、録画ボタンを半押しします。

Flex スポットモードでは、LiDAR は自動的にフレーム内の被写体にフォーカスします。画像をタップするか、ドラッグして選択することで被写体を選択します。

△ ・ワイドモードでは、最大 5 つの被写体を認識できます。白色のフレームは被写体を選択およびフォーカスされていること、グレーのフレームは被写体が認識されているがフォーカスされていないこと、黄色のフレームは被写体がロックされていることを示します。被写体は、ジンバルのフロントダイヤルまたはトリガーボタンで、ロック/ロック解除できます。

拡大設定

[+] アイコンおよび [-] アイコンをタップすると、ズームイン/ズームアウトします。デフォルトの焦点距離（35 mm 判換算）は 30 mm で、LiDAR の焦点距離は 0.5 ~ 10 m です。ビューを拡大すると、LiDAR の焦点距離は 0.5 ~ 20 m になります。

フォーカスモード設定

M ボタン機能をジンバルのタッチ画面で AF/MF に設定します。

ActiveTrack Pro を使用する

RS 4 Pro のトリガーボタンを押して、ActiveTrack Pro を起動/停止します。


ActiveTrack Pro を有効にした場合、緑色のボックスは被写体が認識およびトラッキングされていることを示します。ジョイスティックを動かしてフレームを調整します。赤色のボックスは被写体を見失ったことを示し、白色のボックスは ActiveTrack Pro がキャンセルされたことを示します。

DJI Focus Pro のファームウェア更新

グリップとハンドユニットの更新

Ronin アプリを起動し、グリップまたはハンドユニットに接続します。

1. 新しいファームウェア更新が利用可能になると、アプリにプロンプトが表示されます。[Update Now (今すぐ更新)] をタップして更新を開始します。更新中は、デバイスの電源を切ったり、アプリを終了したりしないでください。
2. 更新が正常に完了すると、Ronin アプリにプロンプトが表示されます。更新が失敗した場合は、グリップまたはハンドユニットと Ronin アプリを再起動し、再試行してください。


-
-  ・ファームウェア更新前に、デバイスに十分なバッテリー残量があることを必ず確認してください。
- ・更新中はスマートフォンがインターネットに接続されていることを確認してください。
-

モーターの更新

モーターを更新するには、モーターをグリップまたはハンドユニットに接続してから、グリップまたはハンドユニットと Ronin アプリで、ファームウェアを更新します。

LiDAR の更新

1. LiDAR の更新ポートをパソコンに接続します。
2. DJI Assistant 2 (Ronin シリーズ) を起動し、DJI アカウントでログインします。
3. 画面左のファームウェア更新ボタンをクリックしてファームウェアを選択し、[Update (更新)] をタップしてファームウェアを更新します。ファームウェアがダウンロードされるのを待ちます。ファームウェア更新が自動的に開始されます。
4. 更新が正常に完了すると、プロンプトが表示されます。

-
-  ・ファームウェア更新中は、インターネットを切断しないでください。切断すると、更新が失敗します。
-

グリップおよび内蔵バッテリーに関する安全ガイドライン

⚠️ 重要 正しい手順に従わないと、物的損害、付随的損害、重大な人身事故の可能性のあるほか、高い確率で軽傷を負う可能性があります。

📖 注記 正しい手順に従わないと、物的損害が発生する可能性があります、人身事故の可能性は全くないか、あってもごく軽微です。

⚠️ 警告

ユーザーマニュアルをよく読んで機能に習熟してから、本製品を操作してください。本製品を正しく操作しないと、本製品や個人の財産の損害や重傷を引き起こすおそれがあります。本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識を持った操作とともに、基本的な機械知識が求められます。本製品を安全かつ責任を持って操作しないと、傷害や本製品またはその他の財産の損害を招くおそれがあります。

本製品は、大人の監督下でないお子様の使用を想定していません。互換性のない部品を使用しないでください。また、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD が提供する資料に記載されている以外の方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用の前に、ユーザーマニュアルに記載されている手順と警告をすべて読み、これに従うことが重要です。

火災、重傷、物的損害を避けるため、グリップの使用、充電、保管時には、以下の安全ガイドラインを順守してください。

⚠️ 警告

グリップの使用

- グリップはいかなる液体類にも触れないようにしてください。グリップを雨にさらしたり、湿気の多い場所に放置したりしないでください。グリップを水に入れしないでください。バッテリー内に水分が入ると、化学分解が起こり、バッテリーが発火したり、爆発につながるおそれがあります。
- グリップが誤って水中に落ちた場合は、グリップをすぐに安全な開けた場所に置いてください。完全に乾燥するまで、グリップから安全な距離を保ってください。そのグリップは以後使用せず、「グリップの廃棄」の記載に従って、適切にグリップを廃棄してください。
- 水、砂、消火用毛布、あるいは乾燥粉末消火剤を使って消火してください。
- DJI 製以外のバッテリーを使用しないでください。新しいバッテリーを購入するには、www.dji.com にアクセスしてください。DJI 以外のバッテリーに起因する損害に対して、DJI は一切責任を負いません。
- グリップに膨張、漏れ、損傷がある場合は使用しないでください。グリップに異常がある場合は、DJI または DJI の正規代理店にご連絡ください。
- グリップは -20°C ~ 45°C の温度範囲で使用してください。50°C を超える環境でグリップを使用すると、火災や爆発につながるおそれがあります。-10°C 以下でグリップを使用すると、回復不能な損傷につながる可能性があります。
- 強い静電環境や電磁環境でグリップを使用しないでください。そのような環境では、バッテリーの制御盤が誤作動する恐れがあります。

- いかなる方法でもグリップを分解したり穴をあけたりしないでください。バッテリーの漏れ、発火、爆発が起こるおそれがあります。
- バッテリーを落下させたり、叩いたりしないでください。グリップの上に重量のある物を置かないでください。
- バッテリーの電解液には非常に高い腐食性があります。電解液が皮膚に触れたり、眼に入ったりした場合には、ただちに流水で15分以上洗い流してから、すぐに医師の診察を受けてください。
- 落下した場合は、グリップを使用しないでください。
- バッテリーを加熱しないでください。電子レンジや高压容器内にグリップを入れないでください。
- 手動でグリップを短絡させないでください。
- 清潔な乾いた布でグリップ端子を清掃してください。

グリップの充電

- 充電中にグリップを放置しないでください。可燃物の近くやカーペット、木などの燃えやすい物の上でグリップを充電しないでください。
- グリップを5℃～40℃の温度範囲外で充電すると、漏れ、過熱、バッテリーの損傷に至るおそれがあります。推奨する充電温度は22℃～28℃です。

グリップの保管

- グリップはお子様やペットの手の届かないところに保管してください。
- グリップを長期間保管する場合は、バッテリー残量が30%～50%になるまでグリップを充電してください。
- 暖炉やヒーターなどの熱源の近くにグリップを放置しないでください。暑い日にグリップを自動車内に放置しないでください。推奨保管環境温度は22℃～28℃です。
- グリップを乾いた状態で保管してください。

グリップのメンテナンス

- 極端な高温や低温でグリップを使用しないでください。
- バッテリーは、45℃を超える高温環境および0℃以下の低温環境で保管しないでください。

移動時の注意事項

- グリップを航空機に持ち込む場合は、あらかじめ放電してバッテリー残量を30%未満にしておく必要があります。グリップは耐火性の場所でのみ放電し、通気性の高い場所で保管してください。
- グリップを眼鏡、時計、宝飾品、ヘアピンなどの金属に近づけないでください。
- 損傷したグリップや、バッテリー残量が30%を超えるグリップを搬送しないでください。

グリップの廃棄

完全に放電してから、指定のリサイクルボックスに入れてグリップを廃棄してください。通常のゴミ容器にグリップを入れないでください。バッテリーの廃棄やリサイクルに関する現地の規制を厳守してください。

注記

グリップの使用

1. 使用前にグリップが完全に充電されていることを確認してください。
2. ローバッテリー警告が表示されたら、できるだけすぐにグリップの充電を行ってください。

グリップの充電

1. グリップは、完全に充電されると充電を停止する設計になっています。ただし、充電の進捗状況を監視し、完全に充電したらグリップの接続を取り外すことをお勧めします。

グリップの保管

1. グリップを 10 日以上使用しない場合は、40～65%までグリップを放電してください。これにより、バッテリーの寿命を大幅に延長できます。
2. グリップが長期間保管されバッテリーが消耗すると、グリップはスリープモードに入ります。スリープモードを終了するにはグリップを再充電します。
3. 長期間保管する場合には、ジンバルからグリップを取り外してください。

グリップのメンテナンス

1. 長期間使用しないと、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
2. グリップを良好な状態に保つために、3 ヶ月に 1 回はグリップを完全に放電したあとに完全に充電してください。

グリップの廃棄

1. グリップが不能になり、バッテリーを完全に放電できない場合は、電池の廃棄またはリサイクル業者に問い合わせ、サポートを受けてください。
2. グリップの過放電後、電源が入らない場合は、すぐにグリップを廃棄してください。

仕様

LiDAR	
アクセサリポート	コールドシュー 1/4-20 ねじ穴 USB-C ファームウェア更新用ポート（電源／USB） USB-C データポート（電源／CVBS／CAN）
イメージセンサー	解像度：1920×1440 FOV： 57.4°（水平）、44.6°（垂直）、70.1°（対角） フレームレート：30fps 焦点距離（35 mm 判換算）：30 mm
ToF センサー	測距点：76,800 検知範囲：0.5 ～ 20 m FOV： 広角モード：65°（水平）、40°（垂直）、76.1°（対角） 望遠モード：FOV：20°（水平）、20°（垂直）、28.3°（対角） フレームレート：30fps 焦点距離（35 mm 判換算）：30 mm（広角モード） 測距精度：± 1% ～ 3%（距離に依存）
機械学習	トラッキング対象：同時に最大 5 つの被写体を認識でき、その中から 1 つ選択してフォロー スマート オブジェクト識別：人、車両 フォーカスエリア：フレックス スポット（対象をフレームで囲む、もしくはトリガーを押すことによりフォーカスロックが有効になる、オートフォーカスにのみ対応し、アクティブトラックには非対応）、ワイド（人物に被写体ロックがかかっている時、オートフォーカスとアクティブトラックの両方に対応*、車両に被写体ロックがかかっている時、オートフォーカスにのみ対応、アクティブトラックには非対応） * アクティブトラックは、DJI RS 4 Pro または DJI RS 3 Pro と併用している時のみ、利用可能。
電気的特性	消費電力：平均 約 6.3 W、最大 6.8 W 入力電圧：6.6 ～ 17.2 V
動作環境温度	-20℃～ 45℃
機械的特性	本体サイズ：約 68 × 25 × 57 mm（長さ×幅×高さ） 重量：約 140 g
取り付け方法&取り付け位置	コールドシューまたは 1/4 インチ ねじ穴を介して直接取り付け可能 DJI Focus Pro LiDAR をカメラの光軸近くに取り付けることをお勧めします。

グリップ

動作周波数	2.400 ~ 2.4835 GHz
Bluetooth 伝送電力	< 8 dBm
機械的特性	本体サイズ：約 59 × 73 × 162 mm (長さ×幅×高さ) 本体重量：約 482 g
取り付け方法	NATO ポートを介して、ケージの左右どちらでも柔軟に取り付けられます

画面 1.8 インチ フルカラー タッチ画面

ポート	USB-C ポート (DJI Focus Pro LiDAR) USB-C ポート (DJI Focus Pro モーター) USB-C ポート (カメラ制御ポート) USB-C ポート (バッテリー充電ポート)
-----	---

動作時間 約 2.5 時間 *
* 25°C の環境下、グリップ画面、LiDAR、フォーカスモーターに同時に電力を供給し、コンティニューアスオートフォーカス (AF-C) がオン、マニュアルレンズとペアリングしている状態で測定。

充電電力 18W PD 急速充電に対応。

バッテリーモデル BHX711-3000-7.2V

電源電圧 6.6 ~ 8.4 V

動作環境温度 -20°C ~ 45°C

ハンドユニット

動作周波数	2.400 ~ 2.4835 GHz
Bluetooth 伝送電力	< 8 dBm
2.4GHz 伝送電力 (EIRP)	< 20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本)) < 26 dBm (FCC)

2.4GHz 伝送距離 160 m*

100 m**

* 障害物や電波干渉がなく、FCC に準拠している環境での測定値です。

** 障害物や電波干渉がなく、CE/SRRC/MIC (日本) に準拠している環境での測定値です。

機械的特性 サイズ：約 128 × 87 × 87 mm (長さ×幅×高さ)
重量：約 555 g (バッテリーを除く)

バッテリー モデル：NP-F550
入力：6.3 ~ 8.4 V
サイズ：71 × 38.6 × 21.1 mm (長さ×幅×高さ)

画面 1.09 インチ フルカラー タッチ画面

静的消費電力 0.83 W

動作環境温度 -20°C ~ 45°C (バッテリー温度を除く)

モーター	
2.4GHz 伝送電力 (EIRP)	< 20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本)) < 26 dBm (FCC)
2.4GHz 伝送距離	160 m* 100 m** * 障害物や電波干渉がなく、FCC に準拠している環境での測定値です。 ** 障害物や電波干渉がなく、CE/SRRC/MIC (日本) に準拠している環境での測定値です。
機械的特性	サイズ：約 100 × 61 × 34 mm (長さ×幅×高さ) 重量：約 123 g ロッドの直径：15 mm 出力ギアの歯数：30 出力ギアのモジュール：0.8
性能	最大トルク：0.6 N·m (8 V) 最大速度：300 rpm (8 V)
電源電圧	6.6 ~ 17.2 V
停動電流	2 A、8 V
自由電流	60 mA、8 V
動作環境温度	-20°C ~ 45°C
出力電圧	6.6 ~ 17.2 V

お問い合わせはこちら



連絡先
DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。



<https://www.dji.com/focus-pro/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI (DocSupport@dji.com)宛にメッセージを送信)までお問い合わせください。

DJI は、DJI の商標です。
Copyright © 2024 DJI OSMO All Rights Reserved.